

森 林

町とJT（日本たばこ産業株）との森林保全活動が、町有林「JTの森積丹」美国川流域エリアで、10月13日、町民とJT社員ら161人が参加し行われました。

2012年秋の森林保全活動は、グループに別れ、保全活動の取り組みでは初めての実施となる「広葉樹の除伐作業」を体験しました。

森や川の生態系の保全や豊かな川と海をつくるためには、広葉樹（天然林）に集まる虫や落ち葉などによる川や海への養分補給の役割は大きく、広葉樹の森林整備は、海を育む森林づくりのための重要な作業の一つとなります。

参加者は、背丈ほどまである笹やぶに入り、広葉樹が果たす役割、切り倒す木の選定と伐採の方法などを後志総合振興局森林室職員等から説明と指導を受け、作業を体験しました。

成長が遅れた細めの樹木とはいえ、手鋸での伐採は大変な作業で、参加者が交代しながら一本の木の伐採にあたる姿も見られました。伐採後のミズナラなどは、来年の保全活動でホダ木として使用することを予定して



▲成長の遅れた樹木の伐採作業

除伐作業の途中から雨が降り出し、午後の行事は、総合文化センターに会場を移し、商工会女性部の手作りによるサケ鍋などで身体を暖めた後、森林の様々な営みや仕組みを学ぶ、森の課外授業が行われました。

後志総合振興局濱田智子林務課長が「種からはじまる森の話」と題し、樹木が子孫を残すために、種子に様々な特徴や工夫がされていることを、カエデの種子などを用い解説してくれました。その後、森林などに関するクイズラリーが行われ、和やかな雰囲気の中で日程を終了しました。

～海を育む水源の森に～ JTの森 積丹 積丹町 × JT

広がるJTとの交流活動 森林づくり・ひとづくり・分煙環境づくり

ひと

森林づくりを進める上で、必要となる「人づくり」を目的とした技術講習会がJTの支援により開催されました。

講習会は、積丹建設協会会員事業所から従業員などが参加し、8月28日は、丸山地区の森林で、枝払いや集積が可能な2台の機械を用い、作業の効率化を図ることを目的とした、林業機械技術講習会が、また、9月11・12日は、婦美地区で森林整備の基本となるチェーンソー作業に関する知識と操作などを学ぶチェーンソー技術講習会が開催されました。

両講習会とも、町内の建設事業者の森林整備技術の向上を目的として開催されたもので、今回の講習会で学んだ知識や技術は、今後の町有林の整備の推進に役立てられます。



秋の森林保全活動に先立ち、同会場で総合文化センター2階に完成した喫煙室の贈呈式が行われ、大森均JT北海道支店長から松井町長に目録が手渡されました。

喫煙室は、分煙コンサルティングを行っているJTが設計し町に寄贈されたもので、受動喫煙など、公共施設における「たばこを吸う人と吸わない人」の間に課題がある今日、「双方が共存できる環境社会」、「選択肢があり、自由に選べる環境社会」づくりを考え、分煙コンサルティング活動に取り組んでいるJTからの提案により設置されたものです。

分煙環境

積丹産カラマツの壁紙や木の葉のフィルムが使用され、森林をイメージした造りとなっている喫煙室は、厚生労働省が定める数値を参考に、「たばこの煙や二オイが漏れない（受動喫煙防止）」、「喫煙所の良好な空気環境の維持」を兼ね備えており、今後の全国の公共施設の望ましい分煙環境づくりのモデルケースとして注目されそうです。

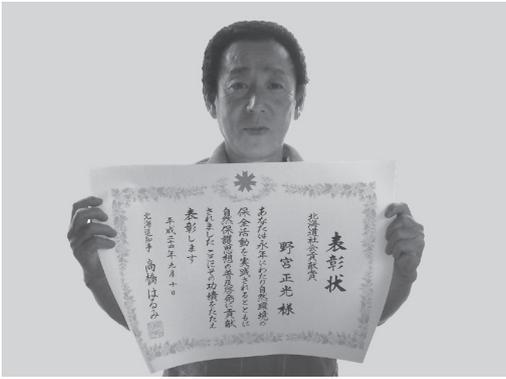


北海道社会貢献賞(自然保護功労者) 受賞

野宮正光さん (余別町) 自然保護監視員として貢献

多年にわたり自然保護監視員として活動され、その功績が顕著な方に贈られる平成24年度北海道社会貢献賞(自然保護功労者)を余別町の野宮正光さん(60歳)が9月10日に受賞され、同月20日にご自宅において表彰状及び副賞が後志総合振興局から伝達されました。

野宮さんは、昭和61年4月から積丹町のニセコ積丹小樽海岸国定公園区域を担当する自然保



護監視員として北海道から委嘱され、現在まで26年間、良好な自然環境を維持するための監視やゴミ等の投棄・散乱防止、自然公園利用者の指導などの業務に携わり、自然環境の保全や自然保護思想の普及啓発に尽力されました。

また、平成19年4月からは、希少野生動植物監視員としてオニオトコヨモギ(*)の監視・保護にも尽力されています。

野宮さんは、「このような賞を受賞でき、大変嬉しく思います。この受賞を励みに、これからも、積丹町の自然環境保全活動を継続して頑張りたい。」と話されていました。

(*)オニオトコヨモギ
北海道西南部、本州の青森県に分布する日本固有種。絶滅危惧種に指定されており、後志管内では積丹町内で自生が確認されています。

美国小学校(野島照久校長) 3年生の社会科見学が9月19日に行われ、新おたる農協の婦美集荷場や旧幌武意小学校、サクラマスサンクチュアリセンターなどを見学しました。児童10人は、見るものすべてに興味津々の様子で、疑問に思ったことや知りたいことなど熱心に質問していました。

美小3年生

社会科見学

におじゃましました・・・

～ 町内の様子、働く人たちの仕事を学ぶ ～

■AM 9:15～ 新おたる農協積丹事業所婦美集荷場



▲普段見ることが無い農協の野菜集荷場。この日は、ミニトマトの出荷作業が行われていました。同農協の中島事業所長からミニトマトの出荷作業の工程などの説明があり、必死にメモを取る児童。また、選別機から4種類の大きさ別に分かれて出てくるミニトマトを箱に詰める作業なども体験しました。

■AM 10:40～ 旧幌武意小学校



▲旧幌武意小学校で展示されている文化財を見学。ニシンを運ぶ際に使われたモッコや、水を入れて冷やす冷蔵庫など、児童にとってはめずらしい展示品ばかり。地域おこし協力隊の阿部さんの説明に真剣に耳を傾けていました。

■AM 10:00～ 長島農園(婦美町)



▲婦美町の長島敏文さんのミニトマトのハウスを見学。土づくりから収穫、出荷までの苦労や喜びを教えてくださいました。試食もさせていただき、「皮が軟らかく甘くてとてもおいしい。」と大人気。トマトが苦手な児童も「おいしい。」と何個も食べていました。

■AM 11:45～ カムイ番屋で昼食
■PM 1:00～ サクラマスサンクチュアリセンター



▲お母さんの美味しい手作り弁当を食べたあとは、余別町のサクラマスサンクチュアリセンターで、サクラマスの生態について学びました。児童からは、「なんで卵を産みに川に戻ってくるのか?川には何匹ぐらいサクラマスがいるのか?」などの難しい質問も・・・。

また、実際にサクラマスの稚魚を手にし、観察なども行われました。

▲児童が観察しながら描いたサクラマスの稚魚

～児童の皆さんお疲れ様でした。～